



世界水産物連盟ニュースレター 2022年9月



SSCIベンチマーク: 責任ある漁船基準のパブリックコメント開始

SSCIとは？

SSCIは、どの第三者スキームが主要なサステナビリティ要件を満たし、適切なガバナンスと検証方法を適用しているかについて、バイヤーとサプライヤーに対し明確なガイダンスを提供することにより、業界への信用を構築する手助けをしています。SSCIは、新たな社会的コンプライアンス基準でも認証スキームでもありません。業界が特定したサステナビリティへの期待に対して、様々な認証スキームを整合させようというものです。

SSCIは、持続可能な調達への信頼を確保し、すべてのステークホルダーに対し監査の重複、複雑さ、コストを削減し、最終的に社会と環境にプラスの影響を与えることに貢献します。監査スキーム・オーナーは、SSCI基準との整合性を実証し、SSCIの承認を得ることにより、消費財業界全体において調和と整合を推進する一方で、自らの認証プロセスにおける基準引き上げへの強力なコミットメントを示すことができます。

SSCIについて詳しくは <https://www.theconsumergoodsforum.com/jp/ssci-2/>

BSP認証の責任ある漁船基準と、BAP・BSP認証の加工工場基準は水産関連の認証としては唯一 SSCIへのベンチマーク申請を行っており、責任ある漁船基準が 10月25日までのパブリックコメント期間に入りました。パブリックコメントに関しての詳細は以下をご確認ください。

https://www.theconsumergoodsforum.com/news_updates/new-ssci-benchmarking-consultation-opens-for-responsible-fishing-vessel-standard/



Responsible Fishing Vessel Standard



CI — At-Sea Operations



GSAが2021年の年次報告書を発行

GSAの2021年次報告書が発行されました。

2021年度のBAP認証生産者の対前年伸び率は8.6%、認証維持率は93.6%、年末時点での合計認証施設数は3,169件でした。BAP認証は39カ国、30魚種で認証を取得済み、施設での従業員の合計は30万人、BAP認証水産物を使用して提供された食事数は234億食でした。

BSP認証についても、2021年末時点では27漁船が責任ある漁船基準を満たしております。(2022年9月時点では50隻まで増えております。)

レポートの原文は[こちら](#)。



消費者はBAP認証を購入の判断材料にしている

Changing Tastes社が2021年に米国の成人消費者3,000人と外食産業の消費者400人を対象に行った調査によると以下のような結果が分かりました。

- 米国の消費者の46%が、BAP認証ラベルを表示する小売企業に好感を抱いている
- 64%の消費者が、他のタンパク質よりもBAP認証ラベルのついた製品を選ぶと回答している
- BAP認証ラベルの認知度が最も高いのはミレニアル世代
- ミレニアル世代の約半数が、水産物を購入する店舗でBAP認証ラベルのついた水産物を扱っていれば、その店舗をより好ましく思う

[こちらのウェビナー](#)にて詳細を解説しております。(英語)



消費者は環境ラベルを 購入の判断材料にしている

Changing Tastes社が2021年に米国の成人消費者3,000人と外食産業の購買意思決定者400人を対象に行った調査によると、肉食を控えた消費者が好むのは水産物であることがわかりました。また、BAP認証ラベルのようなエコラベルが、消費者が購入する水産物や、よく利用するスーパーやレストランに対する「認識」に影響を与えていることもわかりました。実際に、責任ある水産物の生産を促進するエコラベルは、米国の消費者が他の製品よりも、ある製品を、あるいは他のブランドよりもあるブランドを選ぶよう、より多くの影響を及ぼしていることが調査から明らかになりました。

このウェビナーでは、この調査結果の概要をより詳しく説明します。

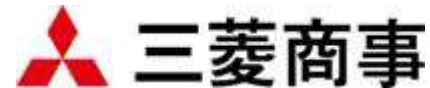
米国の消費者の46%が、BAPラベルを表示する小売企業に好感を抱いている

64%の消費者が、他のタンパク質よりもBAPラベルの付いた製品を選ぶと回答している

BAPラベルの認知度が最も高いのはミレニアル世代

ミレニアル世代の約半数が、水産物を購入する店舗でBAPラベルの付いた水産物を扱っていれば、その店舗をより好ましく思う

国内BAPエンドーサー企業一覧



大林組

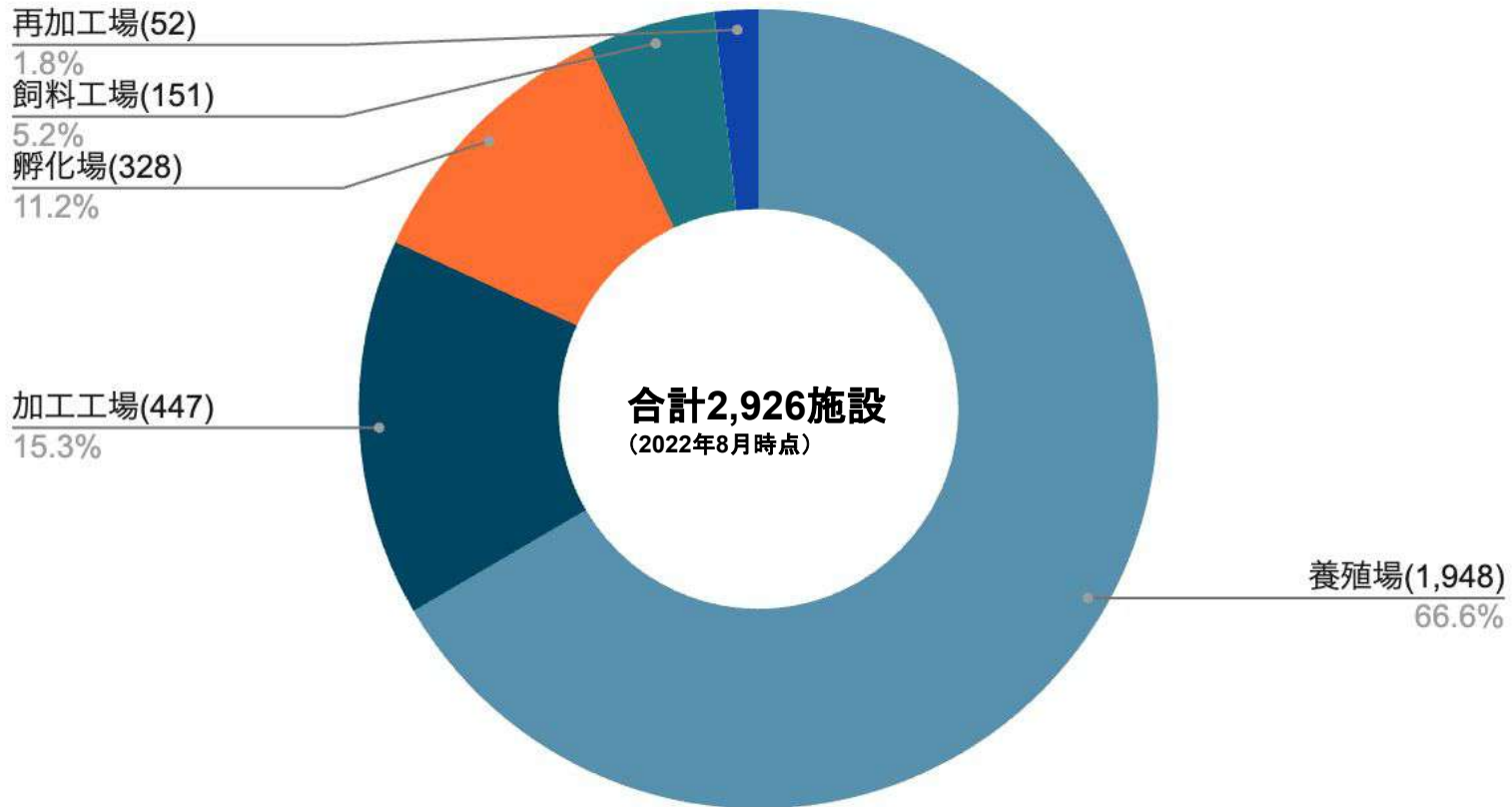
AUDACE



※全28社のうち、23社を掲載

世界でのBAP認証施設数

世界でのBAP認証施設数(2022年8月時点)



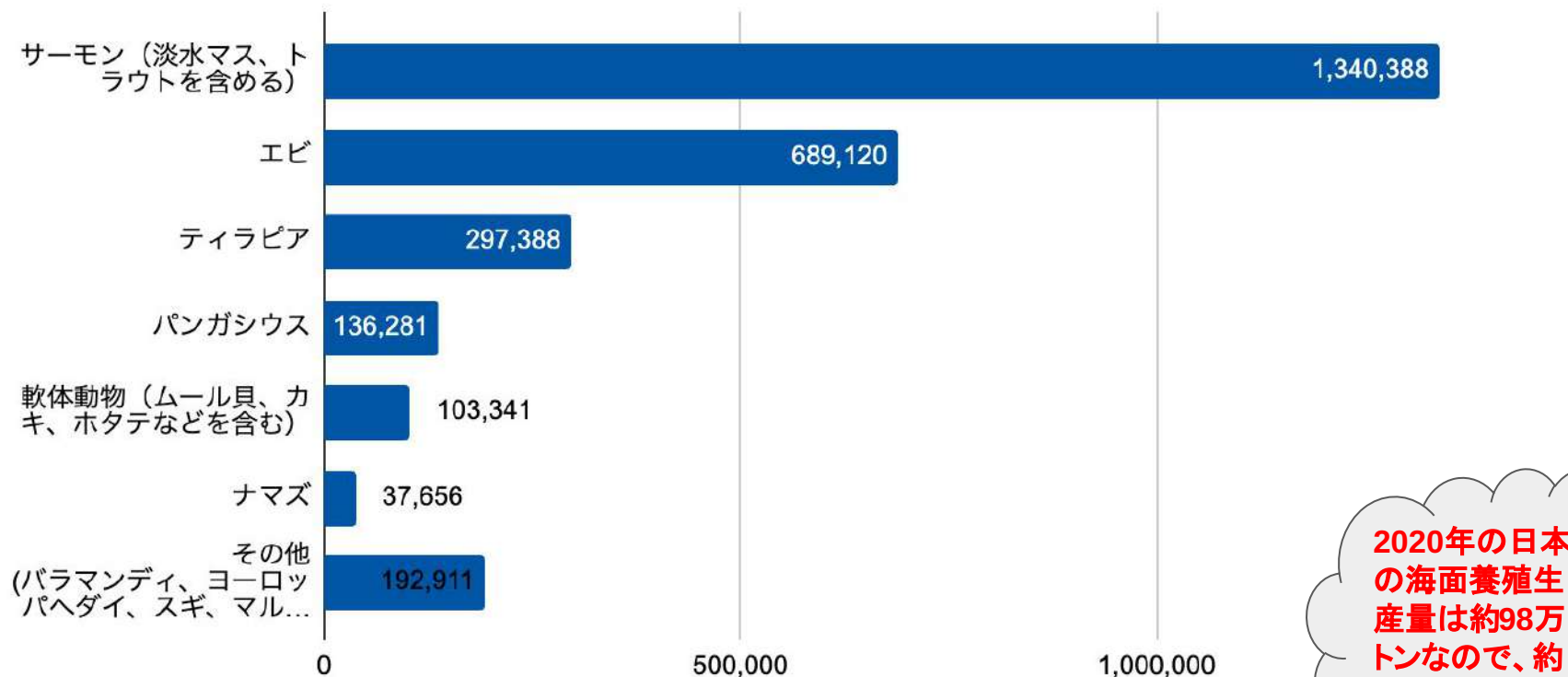
2022年8月時点のBAP認証施設数は2,926件です。

※こちらの数字は各施設の直近の監査結果より集約されております。

現時点での日本での取得施設は無し。

魚種別のBAP認証生産量

2022年8月時点 (単位：トン)



2020年の日本の海面養殖生産量は約98万トンなので、約2.85倍！

2022年8月時点、BAP認証水産物の世界合計は279万7085トンです。
36カ国で29魚種を認証済み。

※こちらはBAP認証を取得している全養殖場の直近の監査結果からの数字です。

BAP認証フェアの企画大募集中です！

BAP認証を運営するGSAではマーケティングサポートも積極的に行っております。
共同でのイベントをご希望の方は日本マーケット担当芝井までご連絡下さいませ。
それぞれのイベントのご要望に合わせて打ち合わせをさせて頂き、必要に応じてポスター、ポップ、
その他ビデオ、ステッカー等々を 無料にてデザイン、納品致します。
※必要枚数の印刷に関しては各企業様でご負担を頂けます様お願い致します。



Front (4' x 6')

Back (4' x 6')

マーケティングサポート用にご用意ができる資料は以下をご参照下さいませ。

<https://drive.google.com/file/d/1COWGrAKVCVoEldZzmsOcSIXJZHcQ5-5h/view?usp=sharing>

マーケットとして導入しやすいBAP認証

ふ化場、飼料工場、養殖場、加工工場はBAP認証の対象になり、年に一度の監査が必要になります。
商品の加工が発生しないサプライヤー、小売、社員食堂やレストランなどのフードサービスはエンドーサー合意書の締結のみで、無料でBAPロゴの使用やリリース、レポート等での発信が可能になります。

特例1: 個別包装された商品を開封、再梱包またはラベルの張り替えをせず、商品の梱包やラベルをそのままの状態での流通する場合について。その施設は加工工場認証の取得対象外になり、エンドーサー合意書の締結のみ必要となりBAPロゴ付き商品として、そのまま販売して頂けます。

特例2: 最終消費現場での商品の加工、調理、再包装、またラベル張り替えをする場合は加工工場認証の対象外となり、エンドーサー合意書の締結のみでロゴを使用いただけます。(スーパーのバックヤード加工、飲食店・レストラン・ホテルの調理場加工など。)

また、複数の水産物を使用した製品に関して、使用された一部の水産物がBAP認証であればロゴマークを使用することができます。可能な限りどの水産物がBAP認証なのかを明記してください。

詳しくは[こちら](#)よりBAP認証ロゴガイドラインをご参照ください。

ふ化場、飼料工場、養殖場、加工工場はBAP認証の対象となります。

BAP認証水産物を販売促進または購買支援する企業はエンドーサー契約の対象となります。



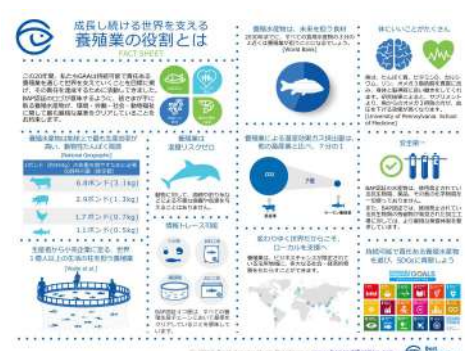
BAP認証の日本語版の各種資料について

BAP認証に関する日本語の三つ折りパンフレットや、各種資料を以下のリンク先より無料ダウンロードすることができます。是非ご活用下さいませ。

<https://info.globalseafood.org/ja-jp/bap>



GSAとBAP認証のご案内



養殖漁業ファクトシート



BAP認証ロゴマーク使用ガイドライン



2020年次レポート

BAP認証の日本語ロゴについて

BAP認証の日本語版ロゴを用意しております。
利用をご希望の方は芝井までお問い合わせください。
kota.shibai@globalseafood.org



魚と人の
未来のために



責任ある
養殖水産物の
国際基準



国際基準を満たした環境で
養殖されています



海と魚を守る安心の
BAPマーク



きれいな海で獲れた健康な
魚介類の証



ニュースレターに関するお問い合わせは以下までお願い致します。
※二次利用をご希望の方はお問い合わせ下さいませ。

世界水産物連盟 日本マーケット担当
芝井 幸太

メールアドレス：
kota.shibai@globalseafood.org

電話番号：
080-2167-0086

BAP認証ウェブサイト
<https://japan.bapcertification.org/>

※配信停止をご希望の方は、こちらまで「配信停止」とご連絡くださいませ。

